

この資料は、英国グラクソ・スミスクライン plc が 2021 年 4 月 28 日に発表したプレスリリースの日本語抄訳であり、報道関係者各位の利便性のために提供するものです。この資料の正式言語は英語であり、その内容およびその解釈については英語が優先されます。詳細は <https://www.gsk.com> をご参照ください。

報道関係者各位

2021 年 5 月 18 日
グラクソ・スミスクライン株式会社

<2021 年 4 月 28 日 英国ロンドン発>

グラクソ・スミスクライン 第 1 四半期業績発表

売上高は 74 億ポンド、AER ベースで 18%減、CER ベースで 15%減

- 一株当たり利益は 21.5 ペンス、AER ベースで 32%減、CER ベースで 25%減。調整後一株当たり利益は 22.9 ペンス、AER ベースで 39%減、CER ベースで 33%減となり、2021 年のガイダンスを再確認
- 第 1 四半期業績は前年比ベースで予想された COVID-19 による影響を反映
- 2022 年に予定している新たな GSK とコンシューマー・ヘルスケア企業への分社化は順調に進行中

ハイライト

医療用医薬品の新製品に堅調な伸びがみられるものの、在庫調整とパンデミックによる影響で相殺

- 医療用医薬品は 39 億ポンド、AER ベースで 12%減、CER ベースで 8%減。新製品およびスペシャリティケア領域が伸びを示す (CER ベースで 3%増)。呼吸器領域は CER ベースで 24%増、免疫炎症領域は CER ベースで 26%増、オンコロジー領域は CER ベースで 38%増であり、CER ベースで 17%減となった長期販売製品の売上減を一部相殺。2020 年の在庫調整と入札時期の影響を受け、HIV 領域製品は CER ベースで 11%減であるが、2 剤レジメン製品の売上高は CER ベースで 41%増
- ワクチンは 12 億ポンド、AER ベースで 32%減、CER ベースで 30%減 (シングリックスは CER ベースで 47%減)、政府による COVID-19 ワクチンの優先的接種状況を反映。下半期はシングリックスには引き続き堅調な伸びを見込む
- コンシューマー・ヘルスケアは 23 億ポンド、AER ベースで 19%減、CER ベースで 16%減 (売却済み/検討中のブランドを除外すると 9%減)。前年比での「在庫状況 (パントリー・ローディング)」と今季は感冒/インフルエンザがそれほど流行しなかったことを反映

効果的なコスト管理が功を奏し、調整後一株当たり利益は 22.9 ペンスを達成

- グループ全体の営業利益率は 22.8%。一株当たり利益は 21.5 ペンス、AER ベースで 32%減、CER ベースで 25%減
- グループ全体の調整後営業利益率は 25.4%。調整後一株当たり利益は 22.9 ペンス、AER ベースで 39%減、CER ベースで 33%減
- 第 1 四半期の事業からのネットキャッシュフローは 3 億 3,100 万ポンド。フリーキャッシュアウトフローは 300 万ポンド

研究開発でも引き続き成果を挙げるとともにバイオ医薬品のパイプラインを強化

- 世界初の長時間作用型 HIV 治療薬となる Cabenuva を上市
- Rukobia および Jemperli(dostarlimab) に対する承認を取得し、EU 規制当局からベンリスタ(ループス腎炎適応) に対する肯定的見解が示される
- 高齢者を対象とした RSV ワクチンと重症喘息を適応とした GSK '294 の第 III 相試験を開始
- 抗体医薬 VIR-7831 に関する良好なデータを取得し、米国と EU で緊急使用許可 (EUA) 申請を提出
- アジュバント添加 COVID-19 ワクチンの第 III 相試験をメディカゴと開始

2022 年に予定している新たな GSK と独立したコンシューマー・ヘルスケア企業への分社化は順調に進行中

- コンシューマー・ヘルスケア合併会社の商業的統合は概ね完了。分社化に伴う作業が進行中
- セファロスピリンの売却発表とともに医薬品ポートフォリオの合理化を継続
- 6 月 23 日の New GSK Investor Update において、戦略、成長の見通し(2022~2031 年)、資本配分の優先順位と時期、および分社化のアプローチを発表する予定

2021 年通年の一株当たり利益の見通しと 2022 年の展望の再確認

- 2021 年の調整後一株当たり利益は CER ベース (%) で一桁台半ばから後半の低下を引き続き見込む
- 2022 年の展望に変更はなく、売上高・利益ともに大幅な改善を予想

第 1 四半期の配当は 19 ペンス。2021 年は引き続き 1 株当たり 80 ペンスとなる見込み

GSK 最高経営責任者のエマ・ウォルムズリーは次のように述べています。

「第 1 四半期の業績は予想通りであり、事前に想定していた COVID-19 による影響が表れた形となっています。GSK では引き続き、本年度の残りの期間で業績に相当の改善がみられることを期待するとともに、2021 年のガイダンスおよび 2022 年の見通しを再確認しています。今後も成長性を強化していく上で、HIV を適応とした Cabenuva の上市と、RSV ワクチンおよび重症喘息を適応とした新たな長時間作用型治療薬の第 III 相試験は、重要なマイルストーンとなります。分社化計画も順調に進んでいますし、6 月に投資家の皆さまに当社の戦略と新たな GSK の成長の見通しについてお伝えするのを心待ちにしております。」

全体の業績結果は 2 ページ目に要約するとともに英語プレスリリース 11 ページの「Financial performance」に、調整後業績結果の修正は 21、22 ページに記載されています。調整後の業績結果は IFRS に基づかない指標であり、IFRS に基づき提示されている情報に加えて検討する性質のものであり、それに代わるまたはそれより優れているものではありません。調整後業績結果は 9 ページに記載されており、£%、AER%成長率、CER%成長率、フリーキャッシュフローおよびその他の IFRS に基づかない指標の定義は 41 ページに記載されています。GSK は、10 ページに記載された理由に基づいて、調整後結果のみをベースにガイダンスを提示しています。将来の業績や配当金の支払いに関する全ての見込み、ガイダンスや目標は、42、43 ページにある「Outlook, assumptions and cautionary statements」と併せて読む必要があります。

2021 年第 1 四半期業績結果

	Q1 2021 £m	成長率	
		£%	CER%
売上	7,418	(18)	(15)
営業利益合計	1,693	(16)	(8)
一株当たり利益合計	21.5p	(32)	(25)
調整後営業利益	1,881	(30)	(23)
調整後一株当たり利益	22.9p	(39)	(33)
営業活動によるネットキャッシュ	331	(66)	
フリーキャッシュフロー	(3)	>(100)	

2021 年ガイダンス

2021 年のガイダンスとして、調整後一株当たり利益が CER ベース(%)で一桁台半ばから後半の範囲で低下するという予想が再確認されました。

2021 年には、予定通り引き続きパイプラインへの投資を増加させ、成長を牽引する主力製品にみられている最高の勢いを足掛かりとし、分社化に向けた準備をほぼ終えることとなります。下半期には医療体制と消費者動向が通常の状態に近づく想定した上で、今後の医療用医薬品の収益は CER ベースで一桁台前半の範囲で横ばいとなり、コンシューマー・ヘルスケアの収益については、上述の市場成長から売却済み／検討中のブランドを除くとすると、CER ベースで一桁台前半から半ばの範囲の伸びがみられると予想しています。ワクチン事業に関しては、2020 年通年の業績発表に示した通り、政府による COVID-19 ワクチン接種プログラムの優先とパンデミック抑制を目的とした継続中の措置を踏まえ、上半期には影響が生じると想定していました。このことは、とりわけ米国において、シングリックスを含む、成人および青年を対象とした予防接種に影響を及ぼすと見込まれており、実際に 2021 年度第 1 四半期のワクチンの業績にもそれが表れています。多くの国々、特に米国と英国では COVID-19 に対するワクチン接種率が高くなってきており、医療体制を通常の状態に戻す上で一役買うという希望も見えてきています。結果として、ワクチン製品に対する需要基盤への確信は引き続き揺らぐことなく、下半期には堅調な回復がみられ、特にシングリックスからは成長への貢献が得られると期待されます。2021 年のワクチン事業の収益は今後も CER ベースで横ばいから一桁台前半の伸びを予想しています。

将来の業績や配当金の支払いに関する全ての見込み、ガイダンスや目標は、英語プレスリリース 42、43 ページにある「Outlook, assumptions and cautionary statements」と併せて読む必要があります。2021 年 3 月 31 日の終値(1.38 ドル/1 ポンド、1.17 ユーロ/1 ポンド、152 円/1 ポンド)の為替レートが 2021 年末まで続くと仮定した場合、2021 年のスターリングでの売上高成長に対するマイナスの影響は 5%と推定され、為替差損益が 2020 年と同じ水準とみなされた場合、2021 年のスターリング調整後一株当たり利益成長に対する影響は、およそ 9%と推定されます。

プレスリリースの原文は <https://www.gsk.com/media/6837/q1-2021-results-announcement.pdf> をご参照ください。

GSK は、より多くの人々に「生きる喜びを、もっと」を届けることを存在意義とする科学に根差したグローバルヘルスケアカンパニーです。詳細情報は <https://jp.gsk.com> をご参照ください。